

オート播種機

GS-1518

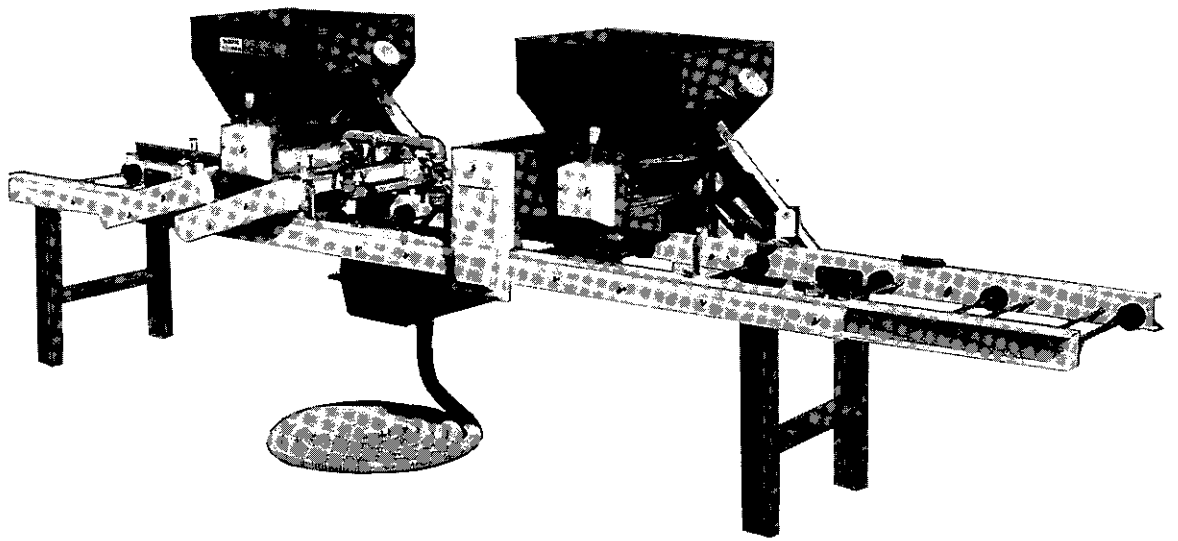
GS-1520

SUZUTEC

取扱説明書

実り豊かな明日をひらく

株式会社 スズテック



条播種機

本機は、中成苗用に開発した条播種機です。条播種により光が下葉まで当り、風通しが良いので、茎の太い、がっちりとした健苗が出来ます。

条播種専用育苗箱は、箱のきわから条播種ができるので、条の効果をよりいっそう高めます。併せて、御利用下さい。

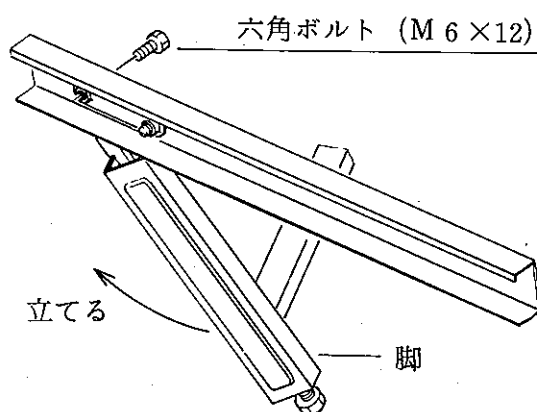
1. 仕様

形 式		GS-1518	GS-1520
機 体 寸 法	全 長	2620mm	
	全 幅	495mm	
	全 高	860mm	
重 量		43kg	
動 力		25W/AC100V	
ホッパー容量	播 種	22ℓ	
	覆 土	22ℓ	
灌 水 量		0.4~1.0ℓ/箱	
播種量調節		調節ダイヤルによるブラシ開閉	
播 種 量		120~220 (散播 150~400cc) cc/箱	
覆土量調節		調節ダイヤルによるゲート開閉	
覆 土 量		0.5~1.5 (3~9mm) ℓ/箱	
能 力		150 (50Hz, 60Hz) 箱/H	

2. 組立要領

(1) 脚の組立

各本機に折りたたまれている脚を立て、六角ボルトにてしっかりと固定して下さい。



(2) レールカバーの組付け

脚を組付けた部分 (前、後2ヶ所) にレールカバーを十字穴付ナベ小ネジ (M6×10) 4本にて組付けて下さい。

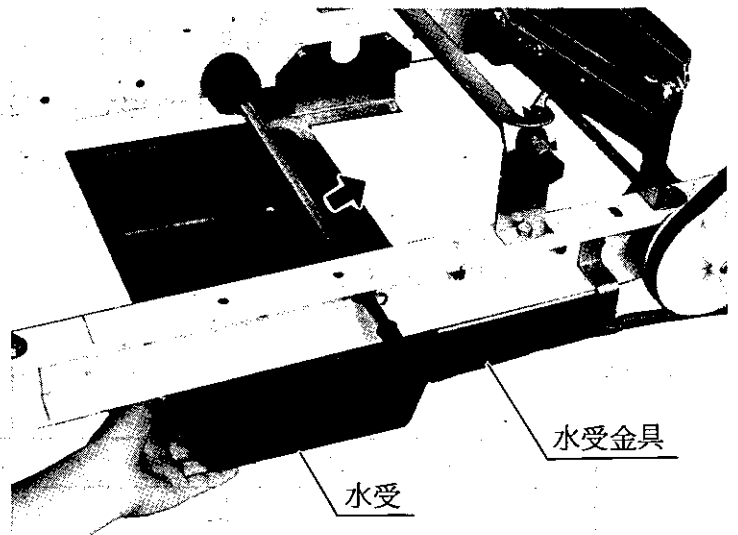
(3) 補助レールの連結

補助レールを本体レールに、六角ボルト (M8×16)、六角ナット、各4ヶにて連結して下さい。

(5) 水受けの組立

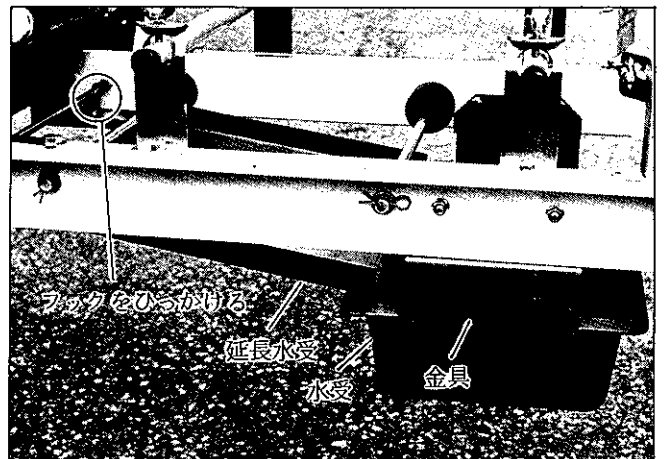
水受けに、排水ホースを接続し、水受け金具に載置して下さい。

注) 水受け金具の穴に、水受けの凸部が入っている事を確認して下さい。



(6) 延長水受けの組立

延長水受けは写真の様に組立てて下さい。



3. 使用方法、及び操作

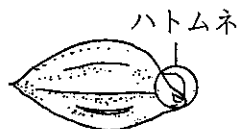
(1) 田植機のかきとり回数と条数の関係

田植機の横かきとり回数と縦条数が合わないとせっかく条播しても、欠株になりますので御注意下さい。

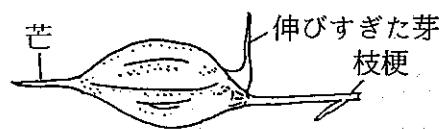
(2) 種粃の処理

イ) 種粃は、ゴミや、芒、枝梗を取り除き、育苗方法に従って、塩水選、消毒、浸種、芽出しを行って下さい。尚、芒、枝梗、粃ガイドに詰って播種ムラの原因になりますので、特に注意して取り除いて下さい。

ロ) 種粃は、「はとむね」位に芽出しをし、芽が伸びすぎないように注意して下さい。又、手につかない程度に陰干しをして、種粃の水分を充分切ってから播種して下さい。種粃の水切りが完全でなかったり、芽が伸びすぎていると「播種ムラ」の原因になります。



良い種もみ



悪い種もみ

(3) 本機の設置

本機は脚先端の六角ボルトの高さを調整して、水平に設置して下さい。(設置が悪いと、箱の片寄り、播種ムラ、灌水ムラ等の原因になる場合もありますので、特に注意して下さい。)

(4) 本機のコードプラグを家庭用AC100Vの電源に差込んで下さい。

(5) メインスイッチを「ON」にして各部のクラッチを入れて、動きを確認して下さい。

(6) 床土の準備

イ) 床土は、5ミリ程度の篩を通したものを使用して下さい。

ロ) 床土の水分

溝付けローラーで、土に山と谷を形成するので、床土は適当な水分を必要とします。極度に乾燥した土は、山が崩れてしまいます。又、湿り過ぎた土は、溝付け、鎮圧ローラーに付着してしまいます。理想的な床土は、片手でかるく握って開いた時にかたまり、指でさわるとすぐ崩れる程度のものです。人工培土の内、粒状培土は溝が付きにくい場合があります。

ハ) 床土入れ

育苗箱は、必ず平らな所に置いて箱に土を入れて下さい。

箱の下に床土や異物があり、また箱の底面が変化しているとその分だけ土入れ量が変わりますので均一な溝が出来ません。

又、土入れ作業後播種迄の時間がある場合は、床土の表面が乾燥しますので御注意下さい。

ニ) 床土のかきとり

床土は、土ナラシ板の7ミリでかきとるのが標準です。

注. 10ミリでかきとると溝の分だけ種粒の播種位置が深くなり正常な条播になりません。

(7) 各部の調節

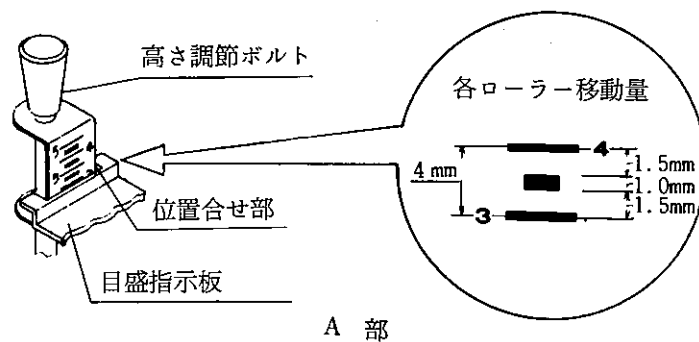
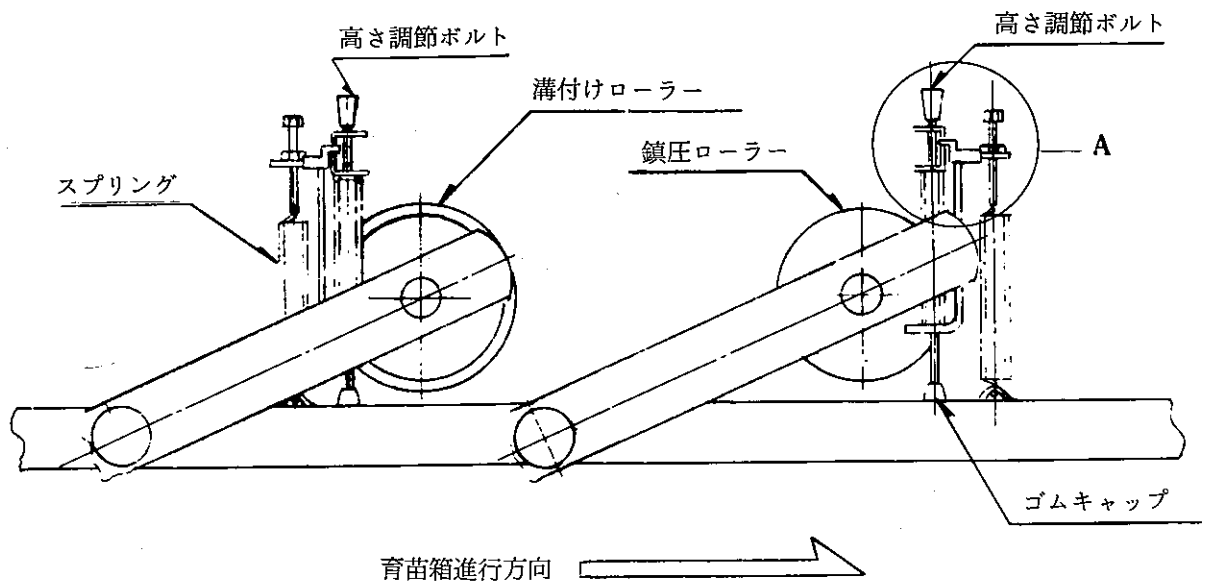
〈溝付け鎮圧ローラーの調節〉

溝付けローラー、鎮圧ローラーの高さ調節は、専用育苗箱に合せ、位置決めしてあります。

土質、水分の違いにより、次のことを確認の上、調節目盛を参考に再度調節して下さい。

目盛り位置合せは、目盛指示板の上端で左、右の目盛位置が同じになるよう合わせて下さい。

なお、各ローラーの上、下移動量は目盛りの寸法とほぼ同じです。(この時ボルトに多少ガタがありますので、目盛りを指示板の近くへ寄せて確認して下さい。)



溝付けローラーの調節

イ) 溝付けローラーの所で、育苗箱がストップする場合

専用育苗箱以外のものを使って、箱が溝付けローラーの所でストップする時は、育苗箱の縁に溝付けローラーをのせてゴムキャップと、レールのすきまが、12ミリになるようにセットしてから、再度、調節して下さい。(工場出荷時、箱の高さ33ミリのものに合わせてあります。)

ロ) 溝が不完全の時

溝付けローラーを下げて下さい。(高さ調節ボルト1回転は、ローラーが1ミリ下降します。) 溝付け中に、ゴムキャップとレールの間スキ間ができる場合は、調節ボルトによりスプリングを張って加圧して下さい。

ハ) 床土が後方へ移動する場合

溝は完全にできるが、床土が移動して後方にたまる時は、スプリングの張りを弱くするか、又は、溝付けローラーを高くして下さい。

鎮圧ローラーの調節

イ) 鎮圧ローラーは、条播種後、種扱の移動をなくす為、軽く押える程度にするものです。

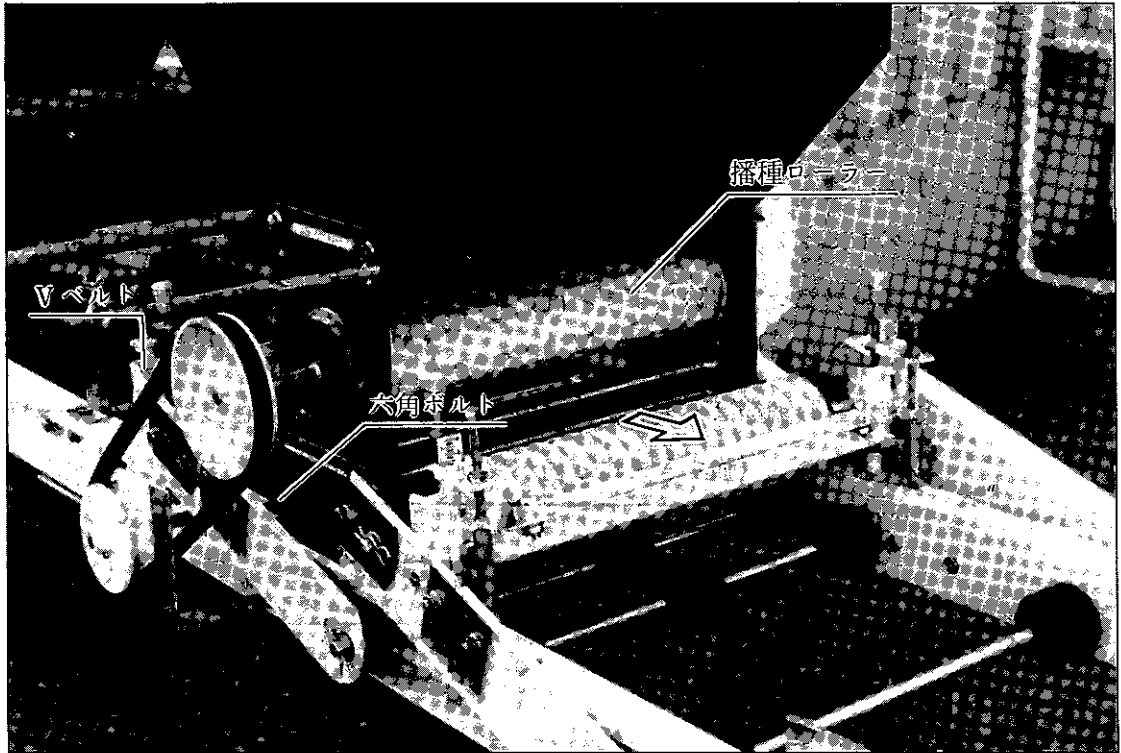
一般に、鎮圧ローラーの自重だけで充分です。

ロ) 床土が後方へ移動する場合

スプリングの張りを弱くするか、又は、鎮圧ローラーを高くして下さい。

〈播種ホッパーの調整〉

播種ホッパー部のVベルトは、出荷時に調整されておりますが播種クラッチを入れても播種ローラーが回らない時は、播種ホッパーを止めている六角ボルト4本を緩め矢印の方へ移動しVベルトを適量だけ張って下さい。

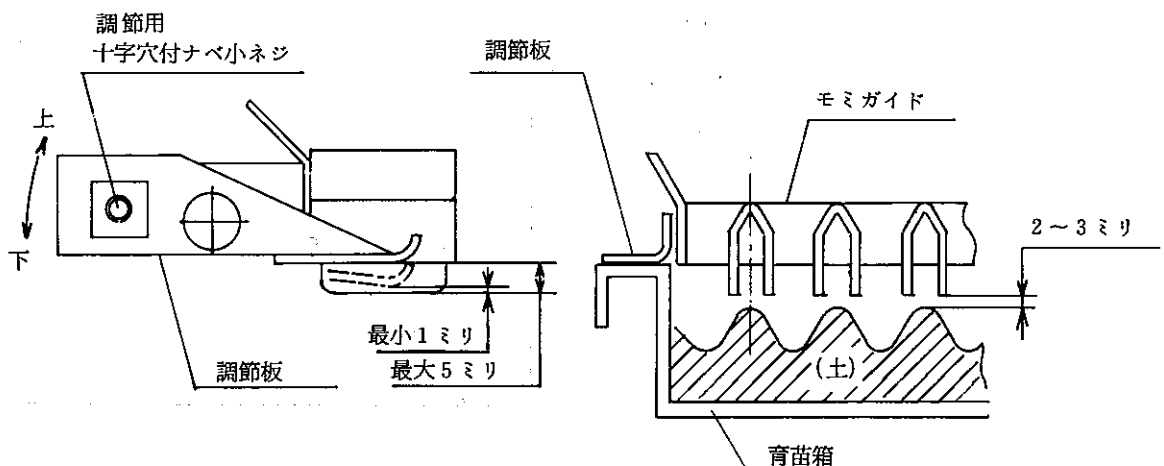


〈播種量の調節〉

播種量の調節は、ホッパー正面のハケ調節ハンドルを右（時計方向）に回せば、播種量が増加し、左に回せば播種量が少なくなります。ハケ調節ハンドル1回転で、ハケと播種ロールのスキマが1.5ミリ開閉します。

〈モミガイドの調節〉

モミガイドは、箱上面より5ミリ下がった位置にセットしてあります。床土入れ量が多い時、又、育苗箱にソリが出て床土の山の部分をモミガイドで削ってしまう時は、モミガイド下面と、山のスキマを2～3ミリになるよう調節板のネジを緩め再度調節して下さい。



〈灌 水〉

イ) 灌水は、種籾が流れて条が崩れないように、2段

階で灌水するようになっています。灌水量は別表のようになっていますので、土質、水分に応じて選ん

で下さい。尚、灌水量は全体で所要の量になるよう調整し、実際に測定して確認して下さい。

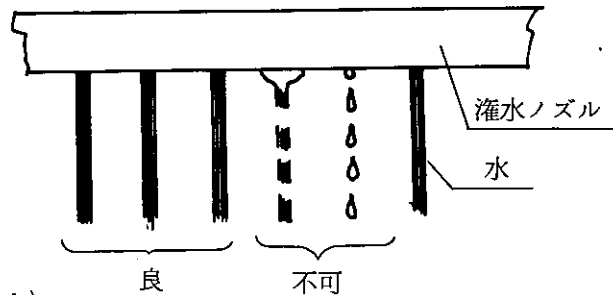
	灌水量
1 段目	350cc以上
2 段目	400cc以上

ロ) 灌水ノズルの点検

水は、ゴミ、砂等の混っていない水を使って下さい。

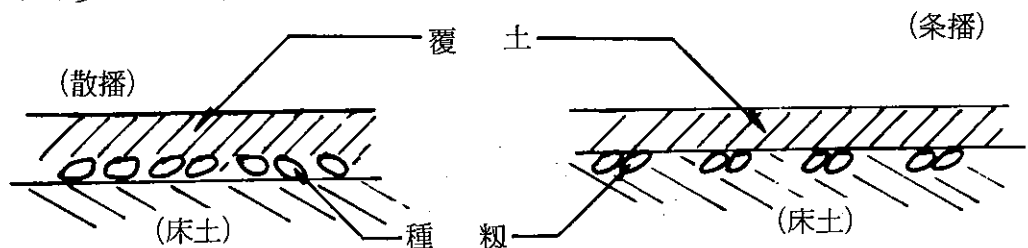
ノズルにゴミ、砂等がつまった場合は、ノズル先端にあるゴム栓を取外して付属のノズルブラシで掃除します。尚、水を勢いよく出してパイプ内をきれいにしてからゴム栓をして下さい。

ハ) 灌水量の調節は、表を参考に少し多めに出して、少しずつ絞っていき所定の量にして下さい。(強すぎますと籾が移動する場合があります)

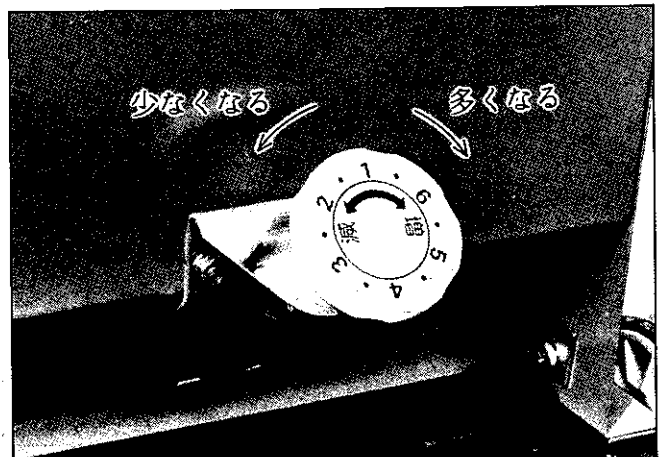


〈覆 土〉

覆土量は、床土量の多く入った分だけ少なくします。つまり、散播に比で、種籾の厚みだけ少なくします。

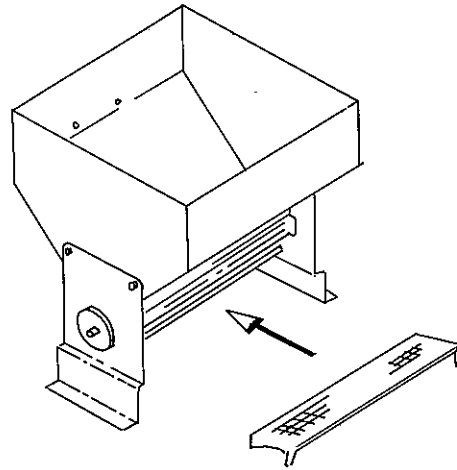


- 覆土量の調節は覆土ホッパー正面についている調節ハンドルにて調節して下さい。ハンドルを(右)に回わせば覆土量は多くなり、(左)に回わせば少なくなります。



覆土振動板の取付

図の様にストッパーボルトに覆土振動板をセットして下さい。



4. 保管, その他

- 1) 育苗箱に「ソリ」「ネジレ」等がありますと、条播できない場合がありますので平らな所に積重ねて保管して下さい。
- 2) 本機使用後は、よく水洗いし（電動機及びスイッチへの放水はしないで下さい）乾かした後、チェーン、軸受部へ必ず給油して下さい。
- 3) 本機の格納は、ゴムローラー、Vベルトを使用していますので直射日光をさけて、風通しの良い所へ格納して下さい。
- 4) 長期間保管する場合、播種部のクラッチ・覆土部クラッチは「入」にして下さい。

SUZUTEC

実り豊かな明日をひらく

株式会社 スズテック

〒321 宇都宮市平出工業団地44-3
TEL.0286(64)1111(代) FAX.0286(62)5592